

3 園評価書（指標）

令和7年度 園評価書

番 号 5

園 名

井川こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かにたくましく伸びるかわっこ	安心できる環境の中で自分の思いを出しながら遊ぶ	やってみたくてという好奇心をもって取り組む姿が見られる	・子どもが、“やってみたい”“やりたい”と思えるような、好きな遊びが選べる園庭、室内での環境を作った。 ・新しい遊びへの関心が高く、保育者の真似をして「やってみたい」と積極的に取り組んでいた。初めての場所や人に対して強い苦手意識が見られたので挨拶などを促しながら緊張感をほぐすようにした。	A	A	○子どもの性格や特性などによく見取らな、適切に生活環境を整えている。子どもにとって安心感があり、自分を発揮できていると思う。 ○園児が1名だが、じっくりと向き合いやりたいたことを伸ばしてあげられると思う。	●小中学校との来年度の交流について、井川小中学校とこども園で、今年度末より話し合いを持ち、関わり方、日程など細かい打ち合わせを行い計画を立てる。今年度より1歩進んだ交流ができるよう話し合いを行う。（こども園側の意見や意向をまとめておく） ●今年度、散歩で交流させてもらった“ピシターセンター”“近隣の商店”“井川交番”など、より交流が持てるように計画し、関わってくれたことへ感謝の気持ちを持っていく。今年度交流できなかった、アイセンへの訪問も再開させ、小中学校と一緒に参加していくように小中学校と連携を図っていく。（1年の後半）
		思いついたことや気づいたことを自分なりに表現できている	・自分の考えや思いを自分なりの言葉で伝えられるようになってきた。言葉のやり取りや絵本、歌など言葉に関する遊びに積極的になってきている。「かして」「おねがい」などの言葉を保育者も意識して伝えるようにしている。	A	A	○職員が各自の持ち味を出しながら、子どもに寄り添った指導や支援をしている。○地域との交流する機会を持つように、努力されていたと思います。	
		近隣の人や、小学生と交流することを楽しんでいる	・散歩などで地域の人と会うと挨拶したり、かわっこひろばで地域の未就園児と一緒に交流しする機会を持つようにしてきた。 ・小学生と交流が持てるように、小学生が地域活動をするときにこども園を拠点に使ってもらい、園児と交流する機会を設けた。 ・来年度は年少児として地域とより交流をしていく機会を設けていきたい。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各年齢の発達や就学までに育ててほしい姿を理解し、子どもの発達に合った経験ができるように適切な援助を行っている	・子どもにとって「楽しい」「面白い」「うれしい」と感じられる経験を優先して実施してきた。 ・子どもが今夢中になって遊べる環境を職員間で話し合い、手作りおもちゃや遊びに必要な道具を準備した。また、年齢に合った生活習慣が身につくように、保育室、トイレなどにイラストを使って見てわかるように工夫した。しかし、相対的な限りのない環境の中で経験、体験のさじ加減が難しく、来年度の課題である。	B	B	○子どもを真ん中に置いて、園生活すべてを運営している。 ○2階の遊戯室や園庭の遊具など、子どもの思いを大切に、生活し易さや学び易さを重視した環境になっている。	●来年度は、教育・保育の充実を図るため、職員間で子どもへの関わり方について、職員会議や園内研修の中で共通理解を深め、統一した方針のもと保育を実践していく。子どもの発達や生活の場面を丁寧に捉え、“自分でできることは自分でやる”経験を大切に、主体性を育む関わりを意識する。また、その意図や具体的な援助の方法を家庭にも伝え、園と家庭が同じ方向性で子どもの成長を支えていく体制を整える。 ●今年度は、満3歳児（2歳児）ということもあり、避難訓練、不審者侵入訓練など、こんな訓練があることを知ってもらうことを目的に、職員の動きの確認を主体に行ってきた。来年度は、地震、火事、地震からの火事など場面ごとにどんな動きをするのか、子ども自身が自分の動きが分かるような指導を行っていく。交通安全指導も特別な時間を取らずに、散歩に行った際に現場での言葉かけや、実際に横断歩道を渡るときに大人と一緒にやってみることで知らせていた。来年度からは決まった日程をしっかりと計画し、紙芝居やパネルシアターなどを使って、子どもに分かりやすい方法で指導を行ってきたい。 ●地域支援員の方が、子育て支援に協力をしてくださり、地域の未就園児がいる家庭に声をかけて、こども園でのおしゃべりサロンに参加を募ってくれていた。来年度も協力していただきたいと考えている。子どもの成長の指標を知っておきたいとの声を頂き、公開保育や行事などの見学や参加を呼びかけ、こども園での子どもへの指導の仕方や考え方などを伝えていきたい。 ●井川村の中心に近い立地条件を活かし、地域の方々と交流機会を計画的に設定することで、地域に根ざした教育・保育の充実を図る。また、小中学校との連携を強化し、年間計画に基づいた交流活動を推進することで、発達や学びを意識した取り組みを進めていく。また、今年度実施できなかった近隣園との交流についても来年度は具体的な計画を立て（facetime・実際に出かけ交流など）、継続的な交流ができるように体制を整えていく。
		園児が安心して過ごせるように園生活の流れを作っている	・研修で学んだ、ボードを使って1日の流れを知らせていくことで、目で見て子どもが1日の流れが分かり、スムーズに次の活動へと移ることができた。 ・園児が乳児期という年齢を考慮し、無理のない1日の流れを繰り返し経験することで園生活を安心して過ごせた。また、自分の居場所があることを認識させていく中で担任との信頼関係が育まれた。	A	A	○小さい子ほど目で見て理解するので、イラストを使って生活習慣を理解させることは良いと思う。 ○担任との信頼関係を割と早く気づけていたと思う。 ○自主性や興味関心を重んじ、自分がやってみたくてが広がるような保育をしていってほしい。	
		子どもの思いを大切にしながら、十分に遊び、繰り返し楽しめる時間と場所を確保している	・「もう1回」「またやりたい」という子どもの思いを大切にしながら、好きだと感じた遊びをじっくり繰り返し取り組める時間と場所を確保してきた。	A	A	○避難訓練・不審者侵入訓練で、怖さを知ることが大事なことであると思う。難しすぎると伝わらないが、日々の声掛けが大切である。 ○地域支援員として、ここ数年は入園児が続きそうなので、一定の目安となる満3歳児に対する理解の指標などがあれば知っておきたいです。 ○1人しかいない環境では、受け身になりやすい面もある。大人が手をかけること、一人で考えさせたり、取り組ませたりするところなど、支援のバランスを図り、3歳児なりに自分のことは自分でできる子に育ててほしい。 ○いつも丁寧な保育で子どもと向き合ってくれて、安心しています。今後も期待しております。 ○井川は四季がはっきりしており、その時々々の自然の豊かさを保育に取り入れてくれていることで、子どもに井川の良さを伝えられていると思います。 ○井川で初めての満3歳児の入園ということで、試行錯誤しご苦労も多かったかと思いますが、地域の立場からこども園で感じる空気感は、とても安心安全で満ち溢れていますので、引き続きよろしく願いいたします。	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練、不審者侵入訓練、交通安全指導を年間計画に沿って実施し、訓練の反省やヒヤリハットを通して事故防止につなげていく	・毎月の避難訓練や不審者侵入訓練を行うことで職員がどのように対応すべきかを改めて確認することができた。 ・年間計画に沿って訓練を行ってきたが、満3歳児がどこまで理解できるか、またどこまで伝えるべきか、悩む部分もあった。	B	B	○避難訓練・不審者侵入訓練で、怖さを知ることが大事なことであると思う。難しすぎると伝わらないが、日々の声掛けが大切である。 ○地域支援員として、ここ数年は入園児が続きそうなので、一定の目安となる満3歳児に対する理解の指標などがあれば知っておきたいです。 ○1人しかいない環境では、受け身になりやすい面もある。大人が手をかけること、一人で考えさせたり、取り組ませたりするところなど、支援のバランスを図り、3歳児なりに自分のことは自分でできる子に育ててほしい。 ○いつも丁寧な保育で子どもと向き合ってくれて、安心しています。今後も期待しております。 ○井川は四季がはっきりしており、その時々々の自然の豊かさを保育に取り入れてくれていることで、子どもに井川の良さを伝えられていると思います。 ○井川で初めての満3歳児の入園ということで、試行錯誤しご苦労も多かったかと思いますが、地域の立場からこども園で感じる空気感は、とても安心安全で満ち溢れていますので、引き続きよろしく願いいたします。	
		3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差は見られるが基本的な生活習慣が身につくよう、家庭と連携を取りながら、個にあった援助をする	・着脱、トイレ指導、食事、手洗いなど身の回りのことを自分でやるようにする気持ちを大切にしながら、基本的な生活習慣の基礎を丁寧に園児に関わり援助してきた。また、保護者にも現状を伝え歩調をあわせられるところと一緒にやってきた。	B	A
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進			子どもの発達にあった指導計画を作成し、園全体で共有していく	・満3歳児の時期の発達を抑えようとして、個の特性を知り、子どもに取ってどんな援助が適切か、月2回の職員会議の中で話し合い、フォローが必要なのは丁寧に園児に関わり援助してきた。	A	A
		5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当者が中心となり、企画、提案、作業分担が行われ、見通しを持ち早めに準備が進められている	・各分掌が中心となり、活動内容の企画を職員間で話し合い、職員会議内で共有し実施した。	A	A
6 研 修	(1)研修体制の充実			教育目標や重点目標に向けて、具体的な手立てを共通理解し、保育実践と研修を重ねている	・子どもの実態に合わせた話し合いを重ね、育ちの姿を共通理解している。 ・公開保育では小中学校の先生や評議員、講師を招き、子どもの姿からどこに遊びの面白さを感じているか、次の手立てはどのようにしていくか話し合い、保育教諭の学びの時間となった。 ・毎月の園内研修や職員会議の中で、今の子どもたちの姿の中で今後伸ばしていきたいところなど課題に対しての手立てを見通しをもって実践している。	A	A
		7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが自ら選択し、じっくりと遊べる環境作りをしている	・子どもの好きなもの、関心を持ったものが手に取りやすく、“大きさ”“素材”“道具”を選び、手作りするなどして、子どもが使いやすい環境を心がけた。	B	A
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実			保護者と保育内容や子どもの育ちを共有できるよう、お便りやドキュメンテーションを使って発信し、子どもの育ちを伝え、子育てを支えている	・毎日のコドモの配信の中で、子どもの遊ぶ姿の写真の添付や毎月のドキュメンテーションの作成、送迎時にその日の子どもの姿、エピソードなどを伝えてきた。また、年末に保護者面談を行い子どもの育ちの様子、これからの手立て、家庭への協力のお願いなど、こども園での子どもの姿を丁寧に伝えた。	A	A
		9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	井川小中学校や近隣園と年間を通しての交流を持ち、こども園、小中学校、互いの指導方法を知る中で、ともに研修が行える機会を設けている	・開園して4か月の中で、小中学校の先生に公開保育に参加していただき事後研修にも参加していただき、小学校へ授業参観させてもらうなど短い期間の中でも交流を持つことはできた。小学生が地域活動へ行く拠点としてこども園を使ってもらう中で、園児との交流も回数は少なかったが行うことができた。 ・来年度はさらに子ども同士の交流や職員間の交流を見据え、こども園、小中学校との連携を模索していきたい。	B	B
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進			豊かな体験が得られるように、地域の様々な人との関わりの機会を大切にしている	・散歩に出かけ、園周辺の地域資源を探り、地域の方々と交流を意識する中で、園行事などに協力してもらえるように働きかけてきた。 ・園児1名 満3歳児という現状の中で、地域との関わりの機会を模索するには時間が無く（開園3か月）また子どもの体験することに限りがあるので、来年度の課題と捉えたい。	C	B